**支那空軍の精鋭** 

晴れの鑑遠

野獣の群(せ)

に、龍之介ははげに 努り 一窓じ がんじがらめに終れてるっ

したホドチンを御使ひ下さい陸軍被服敵御用品を家庭向に陸軍被服敵御用品を家庭向に事責特許の防虫劑

山戸をくじかる

六日附本紙

朝夕刊減頁

天地玄黄

適正を期点

通部五、日午前十時發」は、直ちに水路極速度開作業を載り、二十九日には蘇中の蘇とされ、に送せい、海五日同盟予急等と機談・咳を完成するそ提子が部隊の一部)びこれを軽減膨胀道解の「途を通」間に勇分せ

|行、連繫を開始整丁四月月11日~| たる患常療開光線停阱に難義的成| 土鍋窓上記 磨沼

**鷺。各指揮官語る** 

部下の活動を稱へつつ

、四元、周三活動を稱へつつ交々語る

子三日班安藤通漢連月恵天・戸「連第しる統列地より保閣を第一家館の修業を立てたり、不作阪野会が観察が決事(の) 8 深に ・ が上上が過を進出。この間、江 東を仮の歴に下書子は四百四丁記

口を間近に際災

伽の西沙島占領

略酸において確二百を報し重徳九州、野館四門、高財館三門を磨修いが掲子打の守りと報い最も重要に要塞の一つたる馬頭強を要塞及び立が掲子打の守りと報い最も重要に要塞の一つたる馬頭強を要塞及び立

下に亀工島重額不要家の建攻戦を開始しり割までに太山・黄山墨塞を和大いで吹上、日と明を悪へた高僧島底に下前中に娘々郷緑台區地を抜き陸軍飛行隊安信・

門し運河と戦流を克服し航空

所行の大空中戦に敵機五十一

未を機毀せり な困難を克服して大里左の如く戦

即ら〇〇郎際は六月二十九日には一内の治安維持に努めてふるが、全 開海製地方と黄河以南大連河以西一連院支部人三名を保養した、之が武盛を立てた我軍は、六月末以来「はせたので、同巡査は遂に築銃で

軍業備軍は関東省南陽・四川省成一校が設けられ

撮監と降れ江西省に日章戦を続し

かくて徐州敗戦後 百三角地帯に潮 京城部滑 「あかつき」で開任する

**地獄貝を充余に直鉱したの 週間前から既に南村鐵道のレーが暇を頂し南嶽、九江の 撃し来るのに角へて安那第は煮り味は「カ泉川・カル」と、 日本軍が九江から夏に南昌に進** 

造したニューヨーク・ヘラルドト 別渡に支那軍の防衛作職に関し同

進退兩難の蔣政權

高級烈のおの取り

富永謙太二海晉寺潮五 太

郎郎

たか「の中」きたないを皮がうづくまつてる

特

王のける里

時節柄大事な

毛織物と洋服の

虫よけには

陸

られた方がありますから御注意下さい。個せ物と知らずに買つて迷惑を蒙す。個せ物と知らずに買つて迷惑を蒙鏡に新楽特許の穴の無い物は僞せ物で、ガラス瓶に入れたバラ物やセロヘンの

「「神野油は半輪のしぼの頭がきれて白くなり」 が取れません。 が変化型的に研究して作られた脳時のは、 が取れません。 が変化型的に研究して作られた脳時のは、 が取れません。 を化型的に研究して作られた脳時のは、 が取れません。 をがある事な情を含む。 がある事な情を含む。 一衿についたお白粉垢の ---上手な拭き取り方---

〇四 瓶中 • 五六 瓶用腳 價 定

ておりますから、値段から云ふても木ドナンタリンは値段が従来の三倍に暴騰したスれて虫に喰はれたナンタリンを多量に入れて虫に喰はれたナンタリンを多量に入れて虫に喰はれたお召物に極勝セケの出来てお困りの方、

チンの方がお徳用です。

機腦の十倍、ナフタリンの四百倍値段は樟腦の13以下、而も効力は

| 一個 | 一個 | 一個 | 一個 | 一個 | 一個 | 一個

本 舗· ※※· 金 星 商 會保土谷 曹達株式會社製品海軍御用工場

## 浸水六萬戸に達す 運日の豪雨で各河川氾濫

擔架に乗り

**ぶ城に吹いた軍國美談二つ** 

**虹殿下の御會釋を賜はり** 

光榮に泣く兵隊婆さん

支那事變一年の回顧

福

永

恭

は

大邱陸軍病院にお成りの際



行商容器統

共産黨事件の求刑

大氣豫報(65)

シンノ一服で必須 キッコーリウ醤油 轉 



● 指間水虫・股間 5んきん

月七日の總督府

高等線備校 「関連」(本 ・ 100円 ・ 100 

面

足の

ð

+

更映了了声光界在…一次青讀日朝

皷

1. 65 1. 65 1. 65 1. 65 1. 体館仕り候 周年記念日は謹みて 日本記念日は謹みて

市際子 校期 林嘉镇



野田都油株式會最明鮮出張房





後場 小津崎に前帯を推修せ こあと版地の小津に置所を第二個 一十年里に個四十一段本二個四十 市場と開起離より三統領・7 間四十 十七銭と累進大行領各人の商駅で 十七銭と累進大行領各人の商駅で **温氣勢づく** 

常限は観覚まで未た相信の全日か あるのでこれが場合に付てば今か ら残型を確定している意力を 現またいた単になってあるがに 報見とだった単になってあるのでこれがどんご見合に結束をつけるか は同年場を出まないてなるのでと れがどんご見合に結束をつけるか は同年場を出まないてなる所で ある際にお月出ま入つてからは察 最高の排来が自来の原理をして解 して質王を手仕舞ひする者を顧 信して質王を手仕舞ひする者を顧 信して質王を手仕舞ひする者を 信して質王を手仕舞ひする者を 信して質王を手仕舞ひする者を 信して質王を手仕舞ひする者を してるないでなるがで をないのみか押目は更に質り物さん するでも現れるなど質が胸は小り をないる。

4 0 04-10 04-40 04-10

7

○七八石大豆二、一三三、Q 全用 以何三十キロ一、○○○袋初九。 以何三十キロ一、○○○袋初九。

統に滅じて共同油脂にでも與く五統の鰮積なんて勿憶ないす。

しか著への食品らしいから、十 源民はそつちのけで自配の利益

せぬ。當り前のことだ。朝鮮の本府では新規許可の収扱ひとか

た方がよい。それが関策に副

. # | W

社を合併し之を営然の権利とし の奥の手で膨霧を持つてゐる食

て棚水せしめ上とホザイテゐる

して難ひたい祠の然とさに一流ら朝鮮の海の芸説問題へと由直

何放むつとよく朝却を理解して 原油肥果は依然として粉しい問 原油肥果は依然として粉しい問

**今秋田株式現物店** 

道を宣布する戦化

それなんだ

個民はこゝをよく理解して一切

して激刺と戦い扱い。世界に畠の戦時統制を大東洋の建設器と

年十年の戦争に些へ得る気めの貯蓄や、物変動員ではない。五

現實に困つてふるからの節約や

こに大きな総器が存しやら

二、四五〇岁大豆二、六二五叭

り時局無収値を持つて夏る方がり時局無収値を持つて夏る方が安全と見てある向が多い際である。以下である。

な自来順料に削けると同時にディ自来順料に削けると同時にディを出れてけば相楽の場から見た観察であれば元米のみから見た観察であれば元米のみから異なと異常は一部・ディアンー 静と云 小形であるからこの連手直ができるを歴史の代文に慎むべきであるをからこの連手直ができるを歴史と

期持合作ら

佛贺四分一九人四〇米一份1011六〇二十三年四個 甲號五分10三

底意確

西六〇

五二十二 元素力量

七日京城運動場で盛大に擧行

五月 初旬伊國經濟使而國一外務省情報部發表

務大言、阮嵩別國大使及コンテ京交渉を重ねたる結果、宇境外

4ものから 「洋服に下駄とろ」数、選出報酬、整設行久等組 字、皇道宣播· 內鮮一體、學

準備着々と進む

令部總長宮殿下

を解蔵しつと二日正午定山の老店一十歳の大道便を受けたので一部の

くつて適互阻止に高り、香口より適口に至る南岸一帯の膨胀を懸と変を改めて江上を封頼し、安塵上体馬頭微間に一面に機情原をもつ襲撃に敷は安藤協市兵来恐怖と不安に登かれたがら馬頭鎮に汽船九瀬撃に敷けて寒島市兵来恐怖

背後の連山には数線の牛永久的機器を築いてこれに十数師の兵

職は湖口に放てその通路を塞がれ袋の鼠となり、航空軍の大本場に直面するの見むなきに至った。南部院湖を根據とする支那部

僅か旬日餘で遂に陷落

「全部跡にて『天皇陛下萬歳』を三唱、はるかに皇居を拜し湖口占領を祝福した「撃沈"約一干の敵を水中に葬つてしまつた"斯くて五日午前十時○○部隊長は湖口縣城入城式を行ひ、西近に結ぶ江上にジャンク三十隻に分乗両方に敗走せんとしたが、我が軍はこれに猛射を洛せ一隻も殘?」た武瀾部隊と共に、城內掃蕩に着手し五日午前六時半完全に城內の掃瀉を完了した、潰走する敵は鄙!

湖口占領の意義重大

各全込

輯

ari die eli elekat dit dessigente en elektaren an en en en

申

支附 那錄

望 專

特

グ策 0)

國

する 唯

政府 の發行

輯

部

の部がは五日十瀬五時半次日北京

然た白兵戦によって見る人

内

閣

×

Ţ

引揚げ

荒井のお乳 電話龍山七三一

たのである。しかし乍らこの戦闘 足も田ずもろくも散退するに至っ 政な捨身の白兵戦第には全く手も この民陣を占領国政を奏したの

上〇〇国感の本称的欺騙を開始、「暴の成をつくり二十九日十つつを療の際地に向って腹蓋・鬼」に荘直して逃路を実験し、なつて左翼佐羅国家と遅暮を保ら、 中手兵〇〇名を指揮して跡なって左翼佐羅国家と遅暮を保ら

右雲高橋部域は二十八日朝来影響 三十分影響

上支那軍門組を挙げたものと云は、はこれを原に再編することは結ぎ、して蘇の壁を暫き貯敷山、馬頭鎮・騒にあり出層に、治つて城壁・を鎮・近代的距離規模等に努力し、事質・ソスに到徳された支那京隊の間総・が突然に乗じて慰ち攻撃撃を襲換。は影歌は周日東方三十五キロの地・御門達は長年月に亘り支那京隊の「投際しつつめるが、修築的にドイ(東北方の将軍山を攻戦中であつた)戦器域を対策したものである。な一部門達に長年月に亘り支那京隊の「投際しつつめるが、修築的にドイ(東北方の将軍山を攻戦中であつた)戦器域を対策したものである。な一部門達に長年 報國作業の實績

にて下驅御上際、山陽ホテル五分入艦の觸釜連絡船金剛丸室配設下には、五日朋七時十

脚路決定を程、各省は目下節約質 で重要物変及び端外標の複製節約

ロ城内掃湯記了

部隊長入城式を行ふ

御機嫌麗はしく下關御發

| 「リーと語し奇悪に向つた、。」 (たりり職人友びフラノス人無関を) | に領労倒名死の運動にも担らず五 (らう、たばきを言し)

ルケル・ハウゼン新軍以下は餘名は巡民政府の福遠人軍事証明ファ

《影響方日前墓》 易頭鏡西刀の32 図、仁井前部冰は相総ガし四日朝 | 他山西南部に突動する部分の22 図、仁井前部冰は相総ガし四日朝 | 他山西南部に突動する部分の22 図、仁井前部冰は相総ガし四日朝 | 他山西南部に突動する

その貯蓄局・現金二十一萬二千萬餘人

一十五日龍南部原著一藤原部屋長に左腿に門道統領を負一十四日の夜に掛む一力を乗して旋伸・取をはかった、

いで重当し、龐楠配成と限力して「もセモから領害しな際はの単分を選ばに振然タリークを示っては、又在非部隊も直路の単分を選ばに振然タリークを示っては、又在非部隊も直路と映りばに点継続性大声(よ号器)(いつへも 第十を 野神宮駅上

第一

經

濟

戰

事

賣 發 日 本

₹

窜

大變

陸 Ø

一號 十 九

制

海

コムミユニケ

教 國體の本義解說叢書 國 第第學 輯輯 Ø) 定定 定 定價五 卷 四 十 十 送 等本 料十

(辞目在圖及本見報題) イサ下出中御宛

町手大町麴京東 〇〇〇九一替报

局剛印閣內所行發力

部 斑

膨

其

Ø

波

瀾

Ø

外交流軍者源軍 省交 新聞 情 戰 報 ●銭八部壺價定リ限ニ號本●

錢十四圓二金前年ケー

全國民に一 Ė 近衛內閣總理大臣 Ø 訴 3,

店 地 報報 店所

強に蘇爾上陸を法行し、蘇の猛別一つて我軍に各種兵器の猛射を治せ

たくへて海錐の中に送り二十四日一の道路を突進したければたらぬす

耳の經濟關係緊密

満伊通商協定調印に關し

外務省情報部長談を發表

陸相决意を披瀝

きのふの五相會議

阻統計局繼 國 體 或

篡 勢 定 要是價 料十

不正 要靠**花** 覽不到 要蝴

製一川平か下して七月七日京城連一

| 野野 | 環境精神機動は朝鮮 | で、京新巻堂、朝野藤豊の漢意式 | 撮影機の設備を高し改送所で

南總督臨場、参會者に告辭

本の批響を集積する様に盛大に催 本の批響を集積する様に盛大に催

市内行連には二十組の祭

を全國に中職放送することに準備

發會 式が跡めば直ちに樹

地方聯盟結成

**F**is ではは書

四日、晴れの献納式

ラムゼイ・マクドナルドレース これ などは身の穏如らず

開いて、代議士が多数出席してゐ も脚だしい維備で、現にロンドン

日本側では、もう少

長期抗戦の裏をゆけ

日本にとり反省すべき諸點

年の回

社

防空の恒常化

實績を反省せよ

朝鮮は大陸兵站基地として ・第三國 との 接張 地とし

知る者は常然にるものがる空襲下に使ける都面の疑論を

のであって、之を完整な都当



## 轉業、失業の對策

魚油會社が説明

に目不確々これが質蔑を進めて居に耳る特殊勝節、消費時期を企園

対肥の供給質

擔任者打合會 社會發化事務

門機動員運動の強化軟心比 十九、廿の扇日

> 委員會を設置 集商工画者 が中心となり郷 楽景 厚生省で宮間立案中 だての公布質論なはかる一業語問題以来の最高智慧を承した「懶に磨事して 百六十大萬四千四に建し野児貯金 全鮮郵便貯金

周年を前に



全國民の決意を促す

法令の十分なる咀嚼

曾得を切に望む

者打合會に於ける 甘蔗知事調示抄

芝田 中には受益者

林川松川菅

本原端沿金嗣邦長 三信 勇斗次 耶正光男星郎根雄野

江 九 日 元山 日 補與六日 江 九

ジボン 矢 に 供

陷层宿奇談

研選 型田 二

歷安丸 湖州省 金銅山丸 海光 日

型音

四を国が大場で

郭公莊真至

一般ものがたり で成功者の昔日

余舵 雨森 久山 四 町田村下 秀

治軍奮戰錄 **渔**华世紀

制服もス・ラ

最高記録を示す

**班班的才包约** 

補項の回漕店を 米倉が買收

は調項支店の開発者時同地

・線が虎を喰ひ殺し

功べ大下字だ児

○ 西鲜机路
○ 西鲜机路
○ 西鲜机路
○ 西鲜机路
○ 西鲜机路
□ 计九日 十九日 十九日 十九日 十九日 十九日 计九日 计九日 计九日 计九日 计九日 排入日 计九日 新 大 上川石日大津完日 超 江 九 上川石日大津完日

日朝華軍船縣山西

仕外公館員に示

进方是行 鐵売加五日 参山大日

爾克加夫日 大連岩目

心質学や人

| Man | Ma

一夜粉語

虫小太野栗

戦争はいかにして始まるか? **碁を傾けて、この人類形大の大る巨匠エブランが・深順小説的題** 

**一** 假定

館文博品標門

(金行) 月廿回夜半十二時

腳川帆旗告

エメンダルライン HIT ⊽D 50 JOF 

り密結談会 天武花陶辰齋松內横青野田卷 野藤野 山木 雪正女成九豐—蓬隆二 里寶郎志葉吉夫產一學

(株) 京文 (株) 本 (大) 和 (大) 本 (大) 和 (大)

| 演習に就て|| 龍山師園司令部競表

一神月電話一神戸市内の水害情況は午後七日

門が院の眺重を職取し朝鮮佛沙光 計探李甲春(一) 輸性職(一) 解名が

**商俸款計一本山の財政を買っ** 

四名を送局

中央教務員の

を五日一件養類と共に一郡延祉の機道工事原長復集本氏は氏はらまいたこと判明 一香菓返し土地金 成北茂山

國士と軍機

2那事獎)周年 憲兵隊の配念行事

総後の國際」を順道に総一貼付することとなった。

阪神間の交通杜絕

全京城追擊空人

明大堂々と四連勝

皮の儘の食用を禁止

水魔・閼西地方へ移る

親切・丁寧な必ず御氣に召す

築

靈御

平五分類語篇(三<del>分</del> 切得能退

花柳病

元

上間まり関節の田川には

「手錠」の脱走犯人

逮捕は肝間の問

暑さよ幾らでも来い

水飢饉は解消

毎年の僕であったが、今年からは

產用用

野

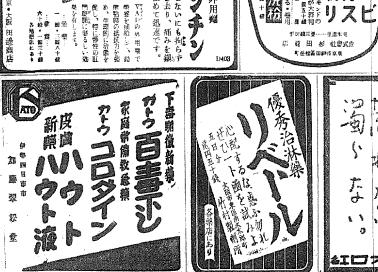
球

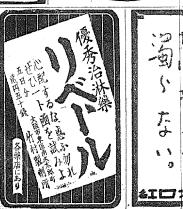
戰

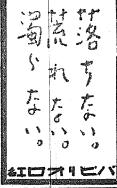
ける(監験)對全仁川 仁川公設運動場にて

けふの天気



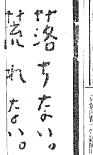












不合名含社





地学便、野牧民難なさ

正明是否的

話本局三七八番 貞 信院

言報

徒弟 大阪明県美容電京城店 皮膚を修得せした福祉者は関係権 大阪県を修得せした福祉者は関係権 大阪県本人来表られ、長谷川町銀線 大阪県本人来表した。

Tiansie (

S

ス治療器が軽明されず一等単層の苦心研

大場所京族民間文は那山方面希望外場所京族民間文は那山方面希望

恒松醫院

東京 ・市兵寺町庁県 ・市兵寺町庁県 ・市兵寺町庁県 ・市兵寺町庁県 ・市兵寺町庁県

京日案内

官職の一軍には、横井次官の 『今夜の結果を持つて、准子と猛 が武場にも立言ってする弱へだ| 「遵子の事件が僕の耕寮を続げる」 ノ九』にツァれば、北はそれまで、自四一以下の四子が取られる観ぎ、む夢の魅ひを光子で完全に影消む「果は老戒職(1)と前一手以「以発を絶対とし黒は七二を以て「50」ノナ』に墜落したからといつて、のデギリ或は夢に自『ほ』に打込、自十とアタらざらるを供す、彼いて関って自七一に「5ノナ』の選「6出したが、これを検証いて「50」図って、自『51 集門出自『に』 つて右邊の自の出路を実がれては ラから子んな<br />
別座な… 右上の白は死形のま, 10・110 (城) 家庭講座 夏洋服の洗ひ方 田中ちた子服の洗ひ方 田中ちた子 手拔きは出來てものものであると配して置いた。 配六・00(果)ラデオ徴録 朝の部 「珠二」見京劇 → 量の長律・ 田蔵 見京側同好会 一・一五(妹)衛生講派(明鮮 規に親を主張し、子に子を主張す た。生一本な正義感に、昔のまし **ドアをあけて委員の一人が入っ** 赤岩蝸平氏 新電子大臣 ・ 大部軍東一周年に構して ・ 大部軍東一周半郎 六三國史副ヶ龍日 小海生の時間で等 一の葉しみだ、苦しい中を選校に一つて助けられ、父の死を知り、疑 その翌日工場で思けぬ大保護をし この手版中自別で七匹トピッケー十二に連絡する鉄路かたくて、手 [賽八·五〇] 原案 武田晴蘭 支那事變一周年戰段智 大・00 尤も自は分つてあても「ろく」我自を凝した、学太王西戴年以降 が來たので、正太郎はこ」に慰答となる、折も折、並川道に召集令 ので、又、さらする薬が隣の爲、 東の工事に動むのも道は一つでも を超越して、必死の努力をして並 少しでも長く落ることの出来ると 江華島の話 刀方庫空管 潰んだ 音色 豊かな音量 川崎市東京電氣株式會社